

主任者 コーナー

第27期放射線安全取扱部会 支部長，委員長ご挨拶

北海道支部長に就任して

稲波 修

このたび北海道支部長を仰せつかりました北海道大学大学院獣医学研究科の稲波です。平成19年より学部の放射線取扱施設の主任者として選任されてから、生命科学分野での非密封放射性同位元素等を中心に管理業務に携わってまいりました。思いもかけず林正信前支部長の後任として務めさせていただくことになりました。まだ部会員としては2期目に入ったところで経験不足な部分があると思いますが、諸先輩方の助けを借りてもり立ててゆきたいと思っています。本第27期の支部委員は前期から引



(左より) 早川，林前支部長，稲波，野矢，安原各委員

き続き務められております伊藤慎二（北海道薬科大学），早川均（北海道電力(株)），野矢洋一（北海道大学アイソトープ総合センター）の諸氏と，今期から安原優子氏（北海道大学農学部）が加わりました。

4月には新旧合同支部委員会と春の教育訓練を開催し，11月には見学会の開催を予定しております。また，例年に引き続き，日本原子力学会北海道支部主催の“原子力オープンスクール”と北海道地区大学等施設協議会での研究会の共催・協賛を予定しております。北海道という広い地域の中での組織運営の難しさも感じておりますが，道内に散在する放射線取扱主任者や放射線管理職員にとって必要な情報を発信し，アイソトープ利用と管理に対して相互理解を図ってゆきたいと思っています。

小さな支部でございますが，部会の将来を発展させられるよう努力してゆく所存です。道内の会員各位のこれまでも増したご協力とご支援を賜りますよう，よろしくお願い申し上げます。

(北海道大学大学院獣医学研究科放射線学教室)

東北支部長に就任して

大槻 勤

東北大学電子光理学研究センターの大槻と申します。前期に引き続き本第27期も東北支部長を仰せつかりました。よろしくお願いたします。再任の佐藤和則氏（東北大学加齢医学研究所）、野田喜美雄氏（日本原燃(株)）、坂根正一氏（日立アロカメディカル(株)）に加えて、十和田誠氏（岩手医科大学）の後任として新たに乾恵美子氏（山形大学）に支部委員をお願いすることになりました。また、昨年は主任者部会年次大会（第52回放射線管理研修会）を地元山形市の乾氏をはじめ、支部委員及び実行委員一丸となり開催しましたが、今期もその勢いを継続すべく努力していく所存でございます。

東北支部の主な活動としましては5月の教育訓練講習会、年度末に開催する放射線実務セミナー、隔年に開催していますバーデンゼミナールなどがあります。また、これからは福島第一



(前列左より) 佐藤、大槻、乾
(後列左より) 坂根、野田各委員

原子力発電所の事故対応や支援など、今までの活動以外にも成すべきことが多々あり、東北支部としての力量が問われていると思っています。さらに、日本アイソトープ協会の公益法人化に伴い、私たちの公共への奉仕活動は更に重要さが増してきています。これからは支部としての責任ある立場をわきまえつつ、しっかりと活動していかなければなりません。昨年の年次大会で決意をしました「ナセバナル—今主任者が成すべきこと—」を忘れずに被災地東北の方々に寄り添えるよう身を引き締めて頑張りたいと思います。支部委員ともどもご支援をいただきますようよろしくお願いいたします。

(東北大学電子光理学研究センター)

関東支部長に就任して

鈴木 崇彦

このたび第27期の関東支部長を拝命いたしました。東京大学大学院医学系研究科の鈴木です。当支部は、関東1都6県に、山梨県、新潟県、長野県を加えた10都県から構成され、部会員数も最大です。しかし、部会員は東京近郊に集中しており、関東支部としてまとまって活動するのはなかなか難しいものがあります。昨年は、榎本前委員長の下、放射線医学総合研究所の見学会が催され、部会員の懇親・意見交換を図る良い機会となりました。今後、都心部以外で部会員が企画する活動などが提案されれば、それを支援していくのも支部としての役割かもしれません。もし、放射線安全取扱いに関する活動についてご要望、ご提案があれば、遠慮なくお知らせいただきたいと思います。

当支部の定例活動としては、春3回と秋2回



(前列左より) 大登, 五十嵐, 鈴木, 飯塚, 高橋
 (後列左より) 梁田, 江田, 佐藤, 松本, 小柳, 金子各委員
 (右上) 片岡委員

の教育訓練講習会の開催, 事業所内教育訓練への講師派遣, さらに第1種放射線取扱主任者試験の解答例作成などがあります。

福島第一原子力発電所事故から1年半が経ちますが, 震災がれき中の放射能の問題などから, 関東地区でも焼却処理が頓挫するということが起きています。また, 福島県の農林水産物への風評被害の問題など, 放射線の専門家が議論に参加し, 情報を発信する必要性はまだまだあると感じています。そのような中, 当支部でも引き続き原発事故関連の活動を模索しております。部会員の皆様には今後ともご支援をいただきますようお願いいたします。

(東京大学大学院医学系研究科)

中部支部長に就任して

柴 和弘

河野孝央前支部長にうまく頼まれてしまい支部委員としての経験が1期もないにもかかわらず, 突然中部支部長を任されることになりました。そのため第27期中部支部委員の方々にいろいろご迷惑をお掛けすることもあるかと思いますが, 支部委員の方々のご協力を得て何とか役割を果たしていきたいと考えております。支部委員には前期から引き続き務められる小島久(名古屋大学アイソトープ総合センター), 日比章五(豊田中央研究所), 山口哲郎((株)千代田テクノル), 和田真由美(福井大学ライフサイエンス支援センター)の諸氏と, 今期から小山修司(名古屋大学医学部), 加藤浩(三重大学生命科学支援センター), 横山須美(藤田保健衛生大学)の諸氏が新しく加わり, 計8名で運営していきます。6月1日に開催した新旧合同支部委員会の折, 河野孝央前支部長から年間活動計画のまとめたものを書類並びにCD-Rで



(前列左より) 加藤, 和田, 柴, 横山
 (後列左より) 日比, 小山, 小島, 山口各委員

主任者 コーナー

いただき、大変助かりました。これを見ながら、とりあえず例年どおりの活動をこなしていこうかと考えております。中部支部では、今後の活動として、12月に施設見学会の開催を予定しております。その他、研修会、教育訓練講習会等を開催していく予定にしております。今年度から、放射線安全取扱部会と名称が変更され、支部活動が会員同士の情報交換の場や管理技術の向上だけでなく、福島第一原子力発電所事故以来、放射能・放射線に対する一般の人の不安や専門家に対する不信感を取り除く努力が求められていると思います。これらのことを踏まえ、我々に何ができるかいろいろアイデアを出し合って、支部活動に少しでも貢献していければと考えております。

(金沢大学学際科学実験センター)

近畿支部長就任挨拶

大河原賢一

このたび川本卓男前支部長(京都大学放射性同位元素総合センター)の後を受けて、近畿支部長を務めさせていただくことになりました大河原です。4年前に近畿支部委員を拝命しましたが、支部長を仰せつかるとは思ってもやらず、身の引き締まる思いです。

第27期の支部委員会は、前期から継続の稲垣昌代(近畿大学原子力研究所)、飯田敏行(大阪大学大学院工学研究科)、尾崎誠(京都工芸繊維大学)、佐々木将博(先端医療センター)、谷康輔(ポニー工業(株))、松本敦((株)コーガアイソトープ)の諸氏に加え、今期から矢鋪祐司(日本たばこ産業(株))、大熊浩志(日本メジフィジックス(株))、鈴木健二((株)日本



(前列左より) 尾崎、大河原、松本、谷
(後列左より) 飯田、矢鋪、鈴木、大熊、佐々木、稲垣
各委員

環境調査研究所)の3名の方が新たに委員に就任され、計10名の体制です。

近畿支部の最近の活動は、春と秋の教育訓練講習会、第2種の放射線取扱主任者試験問題の解答例の作成、事業所への講師の派遣に加え、一昨年度は主任者年次大会を、また昨年度は大阪市消防局との合同研修会を開催し、多くの方に参加していただきました。これもひとえに、これまでの諸先輩方のご尽力の賜物と感謝しております。

今年度から日本アイソトープ協会が公益社団法人化され放射線取扱主任者部会も放射線安全取扱部会に変更されました。これまで以上に社会との関わり方が重要になってきますので、ますます活動の範囲が広がってまいります。こうした状況を踏まえ、多様化する社会において皆様方のご支援ご協力をいただきながら魅力的な支部活動を目指したいと思っております。何卒よろしく願いいたします。

(製薬放射線コンファレンス)

中国・四国支部長に就任して

中島 覚

このたび、第27期の中国・四国支部長を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。これまで支部委員を務められた鈴木孝夫先生（鳥取大学）、大変ご苦勞様でした。

今期の委員の構成は、前期からの秋山浩一先生（愛媛大学）、坂口修一先生（山口大学）、中西徹先生（就実大学）と私、今期からの北実先生（鳥取大学）の5名です。また、中国・四国支部から、小野俊朗先生（岡山大学）が本部企画専門委員、川辺睦先生（岡山大学）が本部広報専門委員をされていますので両先生とも連携を取りながら、そして広島大学の稲田晋宣先生と松嶋亮人先生にもお手伝いいただきながら支部活動を進めてまいりたいと思います。

今期の支部の第一の目標は、本年11月8日（木）、9日（金）に松山市総合コミュニティーセンターで開催される放射線安全取扱部会年次大会を成功させることです。支部委員を含む実行委員会を中心に準備を進めておりますので、多



（左より）秋山、中西、坂口、中島、北各委員

くの方にご出席いただければ幸いです。

支部活動の中心は、春の教育訓練講習会と秋の支部研修会です。当然、今期もしっかりこの2つを進めていきたいと考えます。それと同時に、今年5月に中西先生を中心に放射線セミナー「新学習指導要領に基づく放射線の学習指導を考える」を開催しましたが、このような新たな取組みも積極的に進めてまいりたいと思います。

先輩方から引き継いだ支部ですので、しっかりと次の人たちへ繋げていきたいと思っております。そのためには、地域で活躍している若い人にどんどん支部活動を担っていただき、その活動を通して成長していただける場になればと考えています。ぜひ、積極的な支部活動へのご参加をお願いするとともに多くの方のご支援をいただきたいと存じます。

（広島大学自然科学研究支援開発センター）

九州支部長に就任して

百島 則幸

九州支部は、私を含め5名の委員で第27期を務めさせていただくことになりました。百島則幸（九州大学アイソトープ総合センター）、馬田敏幸（産業医科大学アイソトープ研究センター）、萱野信二（(株)千代田テクノル）、岡島敏浩（九州シンクロトロン光研究センター）、芦川信雄（(財)九州環境管理協会）です。岡島氏と芦川氏は今期から、ほかの3名は継続となります。どうぞよろしくお願いいたします。

日本アイソトープ協会は公益社団法人に移行し、それに伴い従来の主任者部会も放射線安全取扱部会と名称を変更することになりました。

主任者 コーナー



(左より) 芦川、百島、萱野、岡島各委員
(右上) 馬田委員

福島第一原子力発電所の事故以来、放射能・放射線に対する安全と安心については、社会から厳しい目が向けられていますし、この厳しい状況は各地にある原発の再稼働やがれき処分問題と相まって当分続くものと思われまます。大学・病院・企業等の放射線施設は原子力発電所とは違うのですが、社会の見方はこれまでと変わってくることも考えられます。部会の目指すところは、アイソトープ・放射線の安全取扱い、管理技術の向上、知識の普及と啓発、放射線取扱主任者をはじめとした専門知識を有する者の育成と地位向上であり、これまで以上に、私たち主任者や管理運営に携わる者には身を引き締めて仕事に取組むことが求められていると感じています。

この部会の目指すところを再確認して、支部委員一同、協力しながら支部運営と活動に努めていきたいと考えております。

企画専門委員会の目指すもの

松田 尚樹

第27期企画専門委員会は、3期目となる重鎮、大倉一枝さん（北海道医療大学）、山下順助さん（秋田大学）、2期目となる小野俊朗さん（岡山大学）、加藤真介さん（横浜薬科大学）、島崎達也さん（熊本大学）、角山雄一さん（京都大学）の6名、そして3期終了で勇退された庄司美樹さんと滝剣朗さんに替わる新メンバーとして、高橋郁子さん（名城大学）と再登板の飯本武志さん（東京大学）の2名という盤石の布陣で臨みます。企画委員会とは何をやるどころかということが、一番よく分かっていない松田が委員長を務めさせていただくという部分が最大の弱みではありますが、総合力で突破してまいりたく存じます。

分からないなりに外から見ておりますと、企画専門委員会といえば主に教育訓練、専門部会、選挙、部会評価というキーワードが思い付きます。この4つを定常業務とすると、これ以外に何ができるか、何をを目指すのかということが、まずは当面の課題となるでしょう。現在の部会運営の基本は支部活動だと思いますので、それをいかに支援するのかということ。一方、支部単位では限界のある活動については、それを取り込み進めていくこと。そして、支部委員会に広報専門委員会や法令検討専門委員会も含めた各ユニット間の粘着剂的役割を果たすこと。例えばこれらのことができるのかもしれませんが、これも、今後の委員会の中で、具体的な企画として練っていききたいと思います。

毎月の原稿に追われる超実務的な広報専門委員会の仕事から離れた一種の安堵感のせいで、いささか浮世離れしたご挨拶になってしまった

かもしれません。お許しいただくとともに、今後の活動について各方面よりご助言、ご意見、アイデアなどお寄せいただければ幸いです。どうぞよろしく願いいたします。

(長崎大学先端生命科学研究支援センター)

今後も“主任者コーナー”のご愛読を

上 蓑 義朋

松田委員長の後を継いで、第27期の広報専門委員会委員長を拝命いたしました。委員会には2年前から加わっていたのですが、いざ委員長になってみると、主任者コーナーを担当するだけとはいえ、毎月の刊行に合わせて執筆をお願いして、まとめることの大変さを思い知らされ始めています。

一時は小説家を目指され、現在は断筆中とどこかでお伺いした名委員長の松田尚樹さん(長崎大学)は企画専門委員会委員長に転出されました。委員としては紅一点だった古田悦子さん(お茶の水女子大学)、関西の風を吹き込んでくださった矢鋪祐司さん(日本たばこ産業(株))は任期満了となりました。今期からは池本祐志さん(日本農薬(株))、宮本昌明さん(神戸大学)、吉田浩子さん(東北大学)が新たに加わっていただきました。これで民間会社の考え方、女性としての視線も確保することができ、良いバランスを保つことができたと思っています。小野孝二さん(大分県立看護科学大学)、川辺睦さん(岡山大学)、鈴木朗史さん(日本原子力研究開発機構に赴任中)、桧垣正吾さん(東京大学)が26期から続けて土台を守ってくださいます。

広報専門委員会としての集まりは年2回に

し、通常の連絡は電子メールで済ませています。日ごろの激務をこなすには、楽しく寄与するのが一番との方針を継承し、17時以降の第2部を近所の居酒屋で開くのも大事にしています。これには勤務時間中の委員会には関わらない協会の方も参加してくださっています。

協会の公益法人化に伴い部会名は変わりましたが、“主任者コーナー”の名前は、今後も主任者の情報交換コーナーとして、お役に立ち、楽しんでいただくために変えません。コーナーをお読みいただくとともに、多くのご寄稿をお願いいたします。

(独立行政法人理化学研究所
仁科加速器研究センター)

法令検討専門委員会委員長を拝命して

野村 貴美

法令検討専門委員長を拝命しまして今回3期目になります。前期までの主な活動は、主任者部会年次大会“相談コーナー”などにおいて会員から質問があった事柄をQ & Aとして整理し、本誌やホームページで紹介することでした。今期も同様に取り組んでいきたいと思えます。最近の主な法令改正の内容は加速器の廃止措置に伴う放射化物のクリアランスであります。今後これに伴う実際の処置などの質問が寄せられるものと考えられます。

ところで、法令検討専門委員会では、実務管理担当者の立場からみて、法令の記載だけでは具体的な対応が不明な点や問題点を抽出して、その具体的な解決法を探り、それを提案する活動を進めています。法令の主旨は、放射線障害を防止することと公共の安全を確保することで

主任者 コーナー

す。これに則して様々な規則等が定められているところですが、時が経てば現場において不一致になっていたりすることもあり、不適合な部分が出てこないことはありません。今回は2011年3月11日の福島第一原子力発電所の事故に伴う放射能汚染が東北・関東地方に広がりました。この地方にある事業所では、管理区域内が線量が低く、外が高いといった逆転現象が生じているところもあります。汚染核種の処理は、放射線障害防止法と異なるために、対応が異なります。これらについても今後協力が求められます。

より合理的でより適切に管理を実施していくためには、部会員の皆様が日頃から気が付いたことや疑問に思っていることを法令検討専門委

員会に寄せていただくことが不可欠です。寄せられたご意見等に対して、直ちに回答ができるとは限りませんが、本委員会で検討させていただきたいと存じます。部会員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。ご意見等は、日本アイソトープ協会放射線安全取扱部会事務局宛によろしくお願い申し上げます。

【法令検討専門委員】 角田昌彦（(独)日本原子力研究開発機構原子力科学研究所）、西沢博志（三菱電機(株)先端技術総合研究所）、原 正幸（東京医科歯科大学医歯学研究支援センター）、矢野和秀（(株)千代田テクノル）、渡辺雄三（順天堂大学大学院医学研究科）

（東京大学大学院工学系研究科）

新刊

2012年版 アイソトープ法令集I

—放射線障害防止法関係法令—

編集・発行 公益社団法人 日本アイソトープ協会 【2012年8月発行】

B5判・513頁 定価 3,570円 会員割引価格 3,150円（消費税込）

2012年4月施行の法令改正により、放射線汚染物の確認制度が導入され、放射化物が放射線障害防止法の規制対象に追加されました。2012年版はこの改正に対応し、2012年4月11日現在の放射線障害防止法関係法令（法律・施行令・施行規則・告示）、文部科学省の通知・事務連絡等まで収載。また「原子力基本法」や「外国為替及び外国貿易法」等の関係法令も抄録しています。法令の各条文から関係する細則を参照できるように、索引を付して利用の便宜を図っている点が本法令集の特色となっています。

公益社団法人
 **日本アイソトープ協会**
Japan Radioisotope Association
〒113-8941 東京都文京区本駒込 2-28-45
TEL (03) 5395-8082 FAX (03) 5395-8053

- ◆ご注文はインターネットまたはFAXにてお願いいたします。
JRIA Book Shop : <http://www.bookpark.ne.jp/jria>
BookPark サービス : FAX (03) 5227-2060
- ◆書店でご注文の際は「発売所 丸善出版」とお申し付け下さい。